

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201377		
法人名	社会福祉法人ハーモニー		
事業所名	グループホームハーモニー		
所在地	松本市島内字広田4068-1		
自己評価作成日	平成27年6月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成27年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの特徴である、小規模施設のユニットケアを活かして一律のケアの提供ではなく、個別のニーズに、個別のケアで答えたい(事)を運営方針としています。地域との関わりが維持できるように外出支援を行なっています。皆で行く小旅行やご家族様との外出のお手伝い、食事や買い物付添などに力を入れています。社会資源の活用として、さまざまなボランティアさんによる協力を得ています。話し相手、踊りや歌をホームで披露していただくことで、職員だけではできない楽しみを提供していただいています。とても良い刺激になっています。認知症の方でもできる限り障害の無い生活が送れるような環境を整えたり、どのようなケアを提供すべきかを考えてケアプランに活かしています。ターミナルケアの希望にも答えています。主治医やご家族様と協力して、少しでも慣れた場所で、慣れたスタッフが最後のお手伝いができるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームハーモニー」は母体法人が経営する「老人保健施設」「デイサービス」に隣接する敷地内に設置されている。建物は木造建築であり、住空間は高天井で梁が組まれており、利用者にとって日本古来の趣のある馴染みの場所、安心感が得られる場所になるよう作られている。寒い季節に向け床暖房が設備されており、ほんわかと温もりのある室内環境が利用者にとって過ごしやすい場所となっている。管理者は母体の老人保健施設より移動で着任されており、専門職として長い実務経験を活かし母体法人と様々な場面で連携を図りグループホームの運営に真摯に携わっている。実務者研修やリーダー研修を活用してキャラバン・メイト(認知症サポーターキャラバン)を行なっていきたくをうかがった。「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」に向けて関係機関等への働きかけ、協力・連携体制づくりなどのネットワーク化を推進していかれることを期待する。法人ハーモニー理念を基に「グループホームハーモニー」の運営方針を作成して「個別ケア重視」の目標(一人ひとりの笑顔のために、気付きと想像力のあるケアを提供しよう)を立て、職員全員でより質の高いケアサービスの提供に向けて取り組まれている。なお利用者の高齢化に伴う身体機能低下が見られ、利用者、ご家族の大きな関心と不安のひとつが重度化した場合の対応のあり方です。ホームでは「見取りに関する指針」を作成して、ホームが対応し得る最大のケアについてご家族に説明をされている。様々な場面で協力医、看護師等との医療連携を図り安心して納得した最期を迎えられるよう支援されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(フルート)		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(ハーブ)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人の理念からグループホームの運営方針、その年のグループホームの目標、職員個々の目標に掘り下げて個々に行動目標を立てて実行し、反省、修正といったPDCAサイクルにつなげている。</p>	<p>法人理念「私たちは、お客様がその人らしく生きることを支えます」を活用しつつ、職員全員で「グループホームハーモニー」の理念に基づく運営方針を作成されている。地域密着型サービスとしての特徴を具体化した内容で組み込まれており、さらに(個別ケア重視)した目標シートを作成して日々の申し送りの際に唱和し、実践に活かされている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>運営推進会議での交流、地域の花見への参加、グループホームの行事への地域の方の参加、地域の消防団の防災訓練参加、近所の方との交流、地域のボランティアの受け入れ、など行なっている。</p>	<p>ご近所のバラ見学やホーム菜園で収穫した野菜をご近所におすそ分け等、地区ひろば祭りや公民館に作品を展示、公民館主催の花見に参加される等積極的に地域との交流に努めている。なおホームの行事や隣接の母体施設(老健)で行われる恒例の夏祭りに参加して地域の方々との交流を深めている。また、ボランティア受け入れも行われており利用者が楽しみにされている。(話し相手、フラダンス等)</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>キャラバンメイトになり、地域への認知症の啓蒙活動に参加したり、ホーム内のボランティア活動時認知症の方の関わり方などアドバイスしている。実習生も受け入れ、認知症ケアの実際を学んでいただいている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月に1回運営推進会議を開催している。転倒などの事故報告を公表し対応などアドバイスを客観的な観点で意見をいただいている。この他行事の計画や実際行事にも参加していただき、取り組みを肌で感じていただけるようにしている。</p>	<p>運営推進会議にはご家族、地区支所長、地区副会長、民生委員、町会役員、地区ひろば職員、消防署員等の参加を得て2か月に1回の頻度で開催されている。活動状況、ホームリスク集計報告、職員移動報告等が伝えられ、また、専門用語「ADL」についての説明や、ADL低下予防について話し合い意見を頂きホームの取り組みにつなげている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	近くの地域包括支援センターと協力をし、運営推進会議への参加や認知症サポーター講座への協力、地区の公民館への作品出展など、積極的に協力している。	運営推進会議の折に地域包括支援センター職員に参加して頂きホームの考え方を伝え理解が得られている。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築き、協働関係の継続に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束研修、虐待防止研修に参加している。以前から身体拘束は行っていない。今後も継続していくために、管理者自ら身体拘束しない意思を示し、拘束することが良い結果を招かない事を伝えている。	隣接法人内(老健)で身体拘束研修、虐待防止研修等が行われ参加されている。なおホーム内研修も行われている。管理者は日頃から身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害について職員全員に伝えおり拘束のないケアの実践に取り組まれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の虐待防止の研修に毎年参加している。研修を通じて、小さな積み重ねや自覚の無い虐待がある事を学び、互いに虐待にならないように注意し合っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の権利擁護の研修に参加し、成年後見制度を学んだりしている。グループホームで実際成年後見制度を利用している方がいるので、実感できている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正に伴う、契約の改定時などは文章で分かりやすく説明し、疑問があれば答えている。面会時にも概要を伝えていたり、運営推進会議でも議題にあげている。入所時の説明には時間をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、ご意見をいただいた時にはすみやかに対応をしている。運営推進会議や松本市の派遣相談員など外から見た目でご意見をいただき運営に活かしている。	日常の関わりの中から利用者の思いの把握に努めるとともに、ご家族訪問時等には職員が日頃の状況を伝えご家族からの意見、要望を引き出す努力や場面づくりをされている。なお得られた意見には迅速に対応されている。市の派遣相談員による利用者の聴き取りが行われており、運営に反映されている。	いうことをためらうご家族の心情を察し、意見表出の場面づくりのためにホーム玄関に意見箱を設置されている。しかし意見の投函がないことをうかがった。短時間での意見の文書化が苦手の方もありアンケート方式などにより簡潔に意見が得られるよう今後の取り組みに期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員対象の全体会議を毎月開催し、話し合いをしたり、意見を出し合う場を設けている。年1回職員へのアンケートを実施して、意見を運営に活かしている。	管理者は月1回職員全体会議を開催し、現場の職員の意見を十分に聴き、提案を受けてホームの運営に反映されている。なお、年1回無記名でのアンケートや年2回の個人面談を実施して職員の働く意欲の向上や質の確保に活かされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己評価表、人事考課表などを使い、目標設定、達成度、次期目標を個人面談で上位者がアドバイスをしてより良い成果が出せるように取り組んでいる。一定の基準で評価をするので公平性が保たれている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月研修会を開催している。自己研鑽で外部の研修にも参加する職員には、査定で評価が得られるような仕組みになって職員のモチベーションを上げている。レベルに応じた研修を業務として参加させてもいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や中信地区の連絡会に加入し、情報収集している。地区の会合では同業者と実際に顔を合わせて、問題点などについて意見を出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談で本人から聴取をして、入所時に良い環境でお迎えできるようにしている。希望があれば、ご本人様にも事前に見学していただき安心してご利用できるように説明をしている。利用開始後も信頼関係を築きながら情報を集め、不安解消のヒントとしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>申し込みから入所決定、入所までの間にできるだけご家族様を面談を重ねて、理解を深める。分からない事や不安があればいつでも相談にのる旨を伝えている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>申し込みの時点で出来る限り、見学をしてサービスの理解をしていただける努力と、困っていることなど聴取をしている。自施設だけで解決できないケースは他のサービスにつなげたりしている。敷地内の事業所の見学も希望があれば同行している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家庭的な雰囲気を大切に、業務優先ではなく、個々の思いに寄り添ってケアにあたっている。ホームの中で本人に、家事を能力に応じて割り振り、やり遂げられるように支援をしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時にはできるだけゆっくりと話ができるように、座ってお茶を飲んでいただくよう勧めている。写真入りの生活記録を渡して本人といっしょに見てもらい話題を提供している。他ご家族との外出支援にも取り組んでいる。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族以外の方も面会を積極的に受け入れ、電話での面会の相談にも丁寧に対応している。いきつけの美容院や久しく帰っていない自宅への外出など可能な限り支援している。</p>	<p>アセスメントの中より利用者がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係の把握に努め、顔なじみの方々(知人、友人等)にホームへ来ていただいたり、出かけていく場を積極的につくり、その関係が継続できるよう支援に当たられている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然にできる人間関係の他に、職員が間に入り共通の話題を提供したり、集団活動を行ない、一体感が持てるように取り組んでいる。逆に不和な場合は環境を整備し対立したり、孤立しないようにケアしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	訳があって利用継続ができなくなった方にも、病院や他事業所の専門職と連携し相談にのっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
(9)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の研修に参加し、思い、意向、希望を理解するためのスキルを獲得し、表面ではなくその裏にある本当の思いに答え、問題解決を図っていくような認知症ケアを実践している。	職員全員が認知症研修に参加して理解を深め利用者の生活史や日常の関わりの中で利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。なお市派遣相談員が毎月訪問して、利用者との会話をされており、相談ノートの中に利用者の思いや希望が記載されている。	日常の関わりの中で発せられる何気ない利用者のつぶやきを書き留めて、思いや希望などの把握につながるよう期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ほとんどの場合、入所前になんらかの介護保険サービスを利用しているため、ケアマネージャや事業所から情報をいただいたり、訪問を行ない生活環境を把握して、入所時の環境作りの参考にしていく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニットケアの利点を活かして、良く観察することはもちろん。記録にも力を入れて、長期的な視野に基づきアセスメントを行ない問題があればケアを修正している。通常の記録以外にも状況把握のために別表なども用いている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向はもちろん、主治医や看護師からの指示や注意点などをとりこみ、必要があれば法人内の老健のリハビリ職や栄養士にアドバイスを求めてプランに取り入れている。職員の意見が出しやすいモニタリング用紙の作成にも力を入れている。	利用者、ご家族の意向を基に主治医や看護師の意見を取り入れるとともに、関連する法人事業所の職員(PT、栄養士等)の意見やアドバイスを参考にして、利用者一人ひとりの特徴を踏まえた介護計画を作成されている。担当者がアセスメントを含めモニタリング実践記録表を作成して職員全員でケアカンファレンス会議を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	効率良く記録できるように書式を工夫し、見直しを行なっている。必要時に見返しがしやすいようにという点にも注意している。記録以外に申し送りやノートを活用したり、リスクマネジメント上の対応策など情報共有できる体制を作っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアの観点から、本人の希望を聞きだしそれに答える取り組みをしている。昔食べたあれが食べたいや、久しく帰っていない自宅にいきたい、デパートに買い物にいきたいなど、ホームの外でのサービスも積極的に実施している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを受け入れ、話し相手や歌や踊りの芸の披露など受け入れている。学生のボランティアなども受け入れ世代を越えた交流は良い刺激になっている。所属の地区の行事にも参加させていただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医について話し合いを持ち、自由に選択していただいている。協力医の往診の協力を得ながら体調管理をしている。往診で解決できない場合は受診の対応を速やかにできるような体制を作っている。定期受診も地域とのつながりという意味もあって対応している。	入所時に「医療連携体制」について説明をされており主治医は自由に選択できるよう支援されている。事業所の協力医を利用される場合は主治医による月1回又は2回の往診を得て体調管理が行われている。なお週1回の訪問看護や法人契約で月3回24時間対応が可能とうかがった。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約で週1回の訪問と必要時の電話相談と臨時訪問の体制をとっている。連絡は24時間オンコール体制にしている。体調の変化を一番初めに気付く、近い存在として自己研鑽し、毎日の健康チェックを行なっている。異変があれば看護師に相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、病院のソーシャルワーカーと連携して、情報のやりとりや現状の把握に努める。ご家族とも連絡を取り、情報交換や相談にのっている。退院カンファレンスにも必ず出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りにおける施設の指針を説明と終末期に関する意向を確認、問題提起をしている。入所後レベル低下により看取りの可能性が現実になりそうな状況の時にも再度、家族面談をして説明と方向性の確認をしている。	「グループホーム ハーモニーにおける看取りに関する指針」を作成し重度化した場合や終末期支援のあり方やホームの対応について入所時に説明が行われている。なお段階ごとにご家族、かかりつけ医等と意向を確認しながら、事業所が対応し得る最大の支援方法を踏まえて、職員間で話し合い、連携体制作りに取り組まれている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で毎年、救急救命講習を開催している。管理者自ら応急手当普及員の資格を取得し指導にあっている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者が甲種防火管理者の資格を取得し管理にあっている。年2回の防災訓練を行なっている。内1回は地域の消防団に参加している。内1回は地域消防団に参加している。年2回の防災訓練が行われており、内1回は地域の消防団や地域住民、に参加して頂きホームの利用者像や立地条件、建築構造等への理解を深めていただき協力体制の構築に努めている。	管理者自ら防災管理者の資格を習得して有事に備えソフト面での対策やハード面での対策に努めている。職員は火災時にそなえ避難場所、避難経路等の確認に努めている。年2回の防災訓練が行われており、内1回は地域の消防団や地域住民、に参加して頂きホームの利用者像や立地条件、建築構造等への理解を深めていただき協力体制の構築に努めている。	小規模福祉施設の火災対策について全国グループホーム火災発生事例をもとに全職員で検討するよう望まれる。なお夜間少ない職員体制の中、職員だけの誘導の限界を具体的に確認し事業所の災害時対策に理解を求め、地域との協力体制の構築に期待する。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えたケアを心がけ、他者の視線がきになる援助が必要な時にはさりげなく居室、トイレに誘導して、プライバシーの確保を心掛けている。個人情報の取り扱いについても守秘義務について理解し記録に個人名が入らないようにしている。	全体会議の中で、リーダーを主体にプライバシーの確保に関する研修を受け会議録を作成し、全職員へ周知を図り職員の意識向上に努めている。なお、日常の関わりの中で管理者、リーダーが気配りをし、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図られている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話をしたり声掛けの中から希望を聞いて、本人の意向に添えるよう努力している。また意思表示が困難な方には表情や反応、生活歴から本人の意思を読み取り尊重するように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、個別性のある支援を心掛けている。その日の本人の様子から希望をたずねたり相談して、散歩、買い物、入浴を行なうようにしている。決まった入浴日は希望がある場合を除いて、固定をしていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、季節に合った服装をしていただけるように心がけている。自己決定がしにくい方には職員と一緒に考えて本人の気持ちにそった支援を心がけている。パーマなどの希望にこたえ外出支援を行なっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を提供したり、一緒に収穫をしている。収穫した野菜を提供したり、季節ごとの旬な食材を取り入れている。日常の会話から食べたい物を聞いて献立に反映したり、手打ちそばの実施、外食の援助なども取り入れて、行事の一部になっている。ご利用者様との食事の支度、片付けは1日の大切な活動のひとつになっている。	ホーム菜園で多種(春菊、胡瓜、ナス、トマト、大根、さつまいも等)を栽培し、利用者と一緒に収穫をして旬の食材として採り入れ、調理の下ごしらえから片付けまでともに行っている。食事に関する一連の作業の中で食欲を高め、食事を楽しめるような働きかけや季節料理(おはぎ、お節、杵の餅つき等)に利用者の満足感が得られるよう支援されている。日々の体調を把握して、一人ひとりに適した調理方法で提供されており職員の言葉がけやさりげないサポートもされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に応じて食事、水分摂取量を職員全員が把握できるよう記録を行い、不足している場合は補助食品を取り入れたりもしている。水分のすまない方にはチェック表を用意し、色々なバリエーションを変えて水分摂取を勧め脱水にならないよう配慮している。刻み食、ミキサー食など一人ひとりにあった食事の形態の工夫して安全な食事の提供を目指している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状態に合わせて、毎食後口腔ケアを行っている、磨き残しがないか確認、介助の必要な方の義歯洗浄を行っている。協力歯科医院と連携して、必要に応じて定期的な受診や往診を受けている。食事前には口腔体操を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんの様子から敏感に察知し自尊心に配慮した支援を行っている。排泄パターンを把握し、トイレに誘導したり、紙パンツから布パンツにはき換えたり、パットの種類を検討するなど本人に合わせた支援をしている。	職員全員が排せつの自立は生きる意欲や自信の回復、食や睡眠等の身体機能につながることを認識して支援に当たられている。排せつチェックシートを活用して利用者の排せつパターンの把握に努め、利用者一人ひとりに合わせた下着等の使い分けに配慮して、個々のパターンや兆候に合わせて前誘導を行うなど自立に向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、豆乳もしくは野菜ジュースを提供したり、食事に繊維のある食材を取り入れ、毎食のお茶を勧めるなど水分補給に努めている。レベルに合わせた散歩、体操をおこなっている。排便の状態を観察しながら食事に気を使っている。看護師とも情報共有しアドバイスを受けている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望で無いかぎり、入浴日の固定はしていない。本人とも相談をしながら入浴の時間を決めて希望に添えるように努めている。拒否のある方には、誘うタイミングや声掛けの仕方、不安の解消を工夫している。ゆずや菖蒲など行事もからめて楽しさを演出している。	入浴日は固定せず、利用者の気持ちや心身の状態に配慮した入浴支援(老健の特浴使用等)も行われている。個々の入浴時間も利用者の希望に沿った支援が行われており満足感が得られている。季節風呂(菖蒲、柚等)や外出による足湯等を楽しまれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情、希望を考慮し休息がとれるよう支援している。不安の表出がある場合は温かい飲み物を提供したり、傍らに寄り添える時間をとるよう心がけている。日中の活動を増やし夜間の安眠を促している。まとまった睡眠が確保できない方には随時休めるように環境を工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の使用目的、用量を職員が理解して服薬の支援が行えるよう服薬情報を掲示してある。本人の状態、経過や変化を看護師に伝え医師に情報提供する等の連携もとれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1年を通して、花見や紅葉狩りなどの集団外出や歌や踊りのボランティアを受け入れ、暮らしが充実するように職員がアイデアを出し合い実行している。季節の作品作りをご利用者様と職員が協力して行ない、得意分野を發揮して作成に取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節ごとの外出をご家族にも参加していただき行っている。個人のニーズに答える事を目標にしていて、鰻が食べたいや生まれ故郷に行きたいなど。	日常的な散歩(午前中施設の周りや時には近隣公共施設の音楽文化ホールへの散策等)や西友での買い物、お墓参り(中山霊園等)、自宅へ立ち寄られるなどの支援に努めている。利用者一人ひとりに合わせた楽しみや張り合いになる事を見つけて、外出の機会を設けご家族の参加を得て楽しまれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、自分で欲しい物を見つけ支払いをしていただいています。自分でお金を支払う事で、お金の大切さ満足感を感じていただくようにしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホームの電話を使っていただきご家族や知人と連絡がとれるように配慮している。また、ご家族から連絡が入った際は、ゆっくり話ができる環境で使えるように配慮している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間に季節の花を飾るなど、季節を感じる物を飾り、季節感、生活感を出す工夫をしている。室温や清潔を保ち不快な刺激が与えないようにし、適度な明るさや良い香りなども使い居心地の良さを工夫している。	玄関には季節感が得られる花々やクリスマスツリーの置物が飾られている。調理場から漂ってくる食材の匂いより生活感が得られる仕様や高天井が昔ながらの建築様式になっており利用者にとって心安らく場所となっている。床暖で温度設定ができており、湿度を保つために要所要所に大判のタオルを掛けるなど工夫をして健康管理に努めている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う仲間が隣合わせになりコミュニケーションがとれ楽しく過ごしてもらえるよう工夫している。また、共用空間でも自然な形で独りになれる環境を整えてそ、それぞれの特性にあった形を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使われている、テレビ、写真、人形など持ち込み自宅の環境にできるだけ近づけている。仏壇や遺影なども自由に置いていただき生活の習慣も継続できるよう配慮している。室温や花を飾るなど感覚的な心地よさにも配慮している。	利用者が慣れ親しんで使われてきた様々な調度品(机、タンス、テレビ、CDラジカセ、家族写真、仏壇等)を持ち込み、各自思い思いの形態に配置して居心地よく過ごされている。仏壇には利用者がお供物を供えるなど心配りをされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが何ができるかを把握した上でスタッフが統一したケアを行なっている。その人の習慣や価値観にも配慮した上で、安全で自立的な環境をさりげなく作るよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人の理念からグループホームの運営方針、その年のグループホームの目標、職員個々の目標に掘り下げて個々に行動目標を立てて実行し、反省、修正といったPDCAサイクルにつなげている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>運営推進会議での交流、地域の花見への参加、グループホームの行事への地域の方の参加、地域の消防団の防災訓練参加、近所の方との交流、地域のボランティアの受け入れ、など行なっている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>キャラバンメイトになり、地域への認知症の啓蒙活動に参加したり、ホーム内のボランティア活動時認知症の方の関わり方などアドバイスしている。実習生も受け入れ、認知症ケアの実際を学んでいただいている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月に1回運営推進会議を開催している。転倒などの事故報告を公表し対応などアドバイスを客観的な観点で意見をいただいている。この他行事の計画や実際行事にも参加していただき、取り組みを肌で感じていただけるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	近くの地域包括支援センターと協力して、運営推進会議への参加や認知症サポーター講座への協力、地区の公民館への作品出展など、積極的に協力している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束研修、虐待防止研修に参加している。以前から身体拘束は行っていない。今後も継続していくために、管理者自ら身体拘束しない意思を示し、拘束することが良い結果を招かない事を伝えている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の虐待防止の研修に毎年参加している。研修を通じて、小さな積み重ねや自覚の無い虐待がある事を学び、互いに虐待にならないように注意し合っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の権利擁護の研修に参加し、成年後見制度を学んだりしている。グループホームで実際成年後見制度を利用している方がいるので、実感できている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正に伴う、契約の改定時などは文章で分かりやすく説明し、疑問があれば答えている。面会時にも概要を伝えていたり、運営推進会議でも議題にあげている。入所時の説明には時間をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、ご意見をいただいた時にはすみやかに対応をしている。運営推進会議や松本市の派遣相談員など外から見た目でご意見をいただき運営に活かしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員対象の全体会議を毎月開催し、話し合いをしたり、意見を出し合う場を設けている。年1回職員へのアンケートを実施して、意見を運営に活かしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己評価表、人事考課表などを使い、目標設定、達成度、次期目標を個人面談で上位者がアドバイスをしてより良い成果が出せるように取り組んでいる。一定の基準で評価をするので公平性が保たれている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月研修会を開催している。自己研鑽で外部の研修にも参加する職員には、査定で評価が得られるような仕組みになって職員のモチベーションを上げている。レベルに応じた研修を業務として参加させてもいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や中信地区の連絡会に加入し、情報収集している。地区の会合では同業者と実際に顔を合わせて、問題点などについて意見を出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談で本人から聴取をして、入所時に良い環境でお迎えできるようにしている。希望があれば、ご本人様にも事前に見学していただき安心してご利用できるように説明をしている。利用開始後も信頼関係を築きながら情報を集め、不安解消のヒントとしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>申し込みから入所決定、入所までの間にできるだけご家族様を面談を重ねて、理解を深める。分からない事や不安があればいつでも相談にのる旨を伝えている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>申し込みの時点で出来る限り、見学をしてサービスの理解をしていただける努力と、困っていることなど聴取をしている。自施設だけで解決できないケースは他のサービスにつなげたりしている。敷地内の事業所の見学も希望があれば同行している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家庭的な雰囲気を大切にして、業務優先ではなく、個々の思いに寄り添ってケアにあたっている。ホームの中で本人に、家事を能力に応じて割り振り、やり遂げられるように支援をしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時にはできるだけゆっくりと話ができるように、座ってお茶を飲んでいただくよう勤めている。写真入りの生活記録を渡して本人といっしょに見てもらい話題を提供している。他ご家族との外出支援にも取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族以外の方も面会を積極的に受け入れ、電話での面会の相談にも丁寧に対応している。いきつけの美容院や久しく帰っていない自宅への外出など可能な限り支援している。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>自然にできる人間関係の他に、職員が間に入り共通の話題を提供したり、集団活動を行ない、一体感が持てるように取り組んでいる。逆に不和な場合は環境を整備し対立したり、孤立しないようにケアしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>訳があって利用継続ができなくなった方にも、病院や他事業所の専門職と連携し相談にのっている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>認知症の研修に参加し、思い、意向、希望を理解するためのスキルを獲得し、表面ではなくその裏にある本当の思いに答え、問題解決を図っていくような認知症ケアを実践している。</p>		
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ほとんどの場合、入所前になんらかの介護保険サービスを利用しているので、ケアマネジャーや事業所から情報をいただいたり、訪問を行ない生活環境を把握して、入所時の環境作りの参考にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニットケアの利点を活かして、良く観察することはもちろん。記録にも力を入れて、長期的な視野に基づきアセスメントを行ない問題があればケアを修正している。通常の記録以外にも状況把握のために別表なども用いている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向はもちろん、主治医や看護師からの指示や注意点などをもちろみ、必要があれば法人内の老健のリハビリ職や栄養士にアドバイスを求めてプランに取り入れている。職員の意見が出しやすいモニタリング用紙の作成にも力を入れている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	効率良く記録できるように書式を工夫し、見直しを行なっている。必要時に見返しがしやすいようにという点にも注意している。記録以外に申し送りやノートを活用したり、リスクマネジメント上の対応策など情報共有できる体制を作っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアの観点から、本人の希望を聞きだしそれに答える取り組みをしている。昔食べたあれが食べたいや、久しく帰っていない自宅にいきたい、デパートに買い物にいきたいなど、ホームの外でのサービスも積極的に実施している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを受け入れ、話し相手や歌や踊りの芸の披露など受け入れている。学生のボランティアなども受け入れ世代を越えた交流は良い刺激になっている。所属の地区の行事にも参加させていただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医について話し合いを持ち、自由に選択していただいている。協力医の往診の協力を得ながら体調管理をしている。往診で解決できない場合は受診の対応を速やかにできるような体制を作っている。定期受診も地域とのつながりという意味もあって対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの契約で週1回の訪問と必要時の電話相談と臨時訪問の体制をとっている。連絡は24時間オンコール体制にしている。体調の変化を一番初めに気付く、近い存在として自己研鑽し、毎日の健康チェックを行っている。異変があれば看護師に相談している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院になった場合、病院のソーシャルワーカーと連携して、情報のやりとりや現状の把握に努める。ご家族とも連絡を取り、情報交換や相談にのっている。退院カンファレンスにも必ず出席している。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に看取りにおける施設の指針を説明と終末期に関する意向を確認、問題提起をしている。入所後レベル低下により看取りの可能性が現実になりそうな状況の時にも再度、家族面談をして説明と方向性の確認をしている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人内で毎年、救急救命講習を開催している。管理者自ら応急手当普及員の資格を取得し指導にあっている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>管理者が甲種防火管理者の資格を取得し管理にあっている。年2回の防災訓練を行なっている。内1回は地域の消防団に参加していただき有事に役立つように、建物の構造や、どのような方が利用しているなどの理解に役立つようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えたケアを心がけ、他者の視線がきになる援助が必要な時にはさりげなく居室、トイレに誘導して、プライバシーの確保を心掛けている。個人情報の取り扱いについても守秘義務について理解し記録に個人名が入らないようにしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話をしたり声掛けの中から希望を聞いて、本人の意向に添えるよう努力している。また意思表示が困難な方には表情や反応、生活歴から本人の意思を読み取り尊重するように心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、個別性のある支援を心掛けている。その日の本人の様子から希望をたずねたり相談して、散歩、買い物、入浴を行なうようにしている。決まった入浴日は希望がある場合を除いて、固定をしていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、季節に合った服装をしていただけるように心がけている。自己決定がしにくい方には職員と一緒に考えて本人の気持ちにそった支援を心がけている。パーマなどの希望にこたえ外出支援を行なっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を提供したり、一緒に収穫をしている。収穫した野菜を提供したり、季節ごとの旬な食材を取り入れている。日常の会話から食べたい物を聞いて献立に反映したり、手打ちそばの実施、外食の援助なども取り入れて、行事の一部になっている。ご利用者様との食事の支度、片付けは1日の大切な活動のひとつになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>体調に応じて食事、水分摂取量を職員全員が把握できるよう記録を行い、不足している場合は補助食品を取り入れたりもしている。水分のすまない方にはチェック表を用意し、色々なバリエーションを変えて水分摂取を勧め脱水にならないよう配慮している。刻み食、ミキサー食など一人ひとりにあった食事の形態の工夫して安全な食事の提供を目指している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>ご利用者様の状態に合わせて、毎食後口腔ケアを行っている、磨き残しがどうか確認、介助の必要な方の義歯洗浄を行っている。協力歯科医院と連携して、必要に応じて定期的な受診や往診を受けている。食事前には口腔体操を行っている</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>利用者さんの様子から敏感に察知し自尊心に配慮した支援を行っている。排泄パターンを把握し、トイレに誘導したり、紙パンツから布パンツにはき換えたり、パットの種類を検討するなど本人に合わせた支援をしている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日、豆乳もしくは野菜ジュースを提供したり、食事に繊維のある食材を取り入れ、毎食のお茶を勧めるなど水分補給に努めている。レベルに合わせた散歩、体操をおこなっている。排便の状態を観察しながら食事に気を使っている。看護師とも情報共有しアドバイスを受けている</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>希望で無いかぎり、入浴日の固定はしていない。本人とも相談をしながら入浴の時間を決めて希望に添えるように努めている。拒否のある方には、誘うタイミングや声掛けの仕方、不安の解消を工夫している。ゆずや菖蒲など行事もからめて楽しさを演出している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情、希望を考慮し休息がとれるよう支援している。不安の表出がある場合は温かい飲み物を提供したり、傍らに寄り添える時間をとるよう心がけている。日中の活動を増やし夜間の安眠を促している。まとまった睡眠が確保できない方には随時休めるように環境を工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の使用目的、用量を職員が理解して服薬の支援が行えるよう服薬情報を掲示してある。本人の状態、経過や変化を看護師に伝え医師に情報提供する等の連携もとれている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1年を通して、花見や紅葉狩りなどの集団外出や歌や踊りのボランティアを受け入れ、暮らしが充実するように職員がアイデアを出し合い実行している。季節の作品作りをご利用者様と職員が協力して行ない、得意分野を發揮して作成に取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節ごとの外出をご家族にも参加していただき行っている。個人のニーズに答える事を目標にしていて、鰻が食べたいや生まれ故郷に行きたいなど。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、自分で欲しい物を見つけ支払いをしていただいています。自分でお金を支払う事で、お金の大切さ満足感を感じていただくようにしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホームの電話を使っていただきご家族や知人と連絡がとれるように配慮している。また、ご家族から連絡が入った際は、ゆっくり話ができる環境で使えるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間に季節の花を飾るなど、季節を感じる物を飾り、季節感、生活感を出す工夫をしている。室温や清潔を保ち不快な刺激を与えないようにし、適度な明るさや良い香りなども使い居心地の良さを工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う仲間が隣合わせになりコミュニケーションがとれ楽しく過ごしてもらえるよう工夫している。また、共用空間でも自然な形で独りになれる環境を整えてそ、それぞれの特性にあった形を尊重している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使われている、テレビ、写真、人形など持ち込み自宅の環境にできるだけ近づけている。仏壇や遺影なども自由に置いていただき生活の習慣も継続できるよう配慮している。室温や花を飾るなど感覚的な心地よさにも配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが何ができるかを把握した上でスタッフが統一したケアを行なっている。その人の習慣や価値観にも配慮した上で、安全で自立的な環境をさりげなく作るよう配慮している。		

目標達成計画

作成日: 平成27年12月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映をためにご利用者様やご家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させる取り組みが必要になる。その中で言うことをためらうご家族の心情を察し、意見表出の場面作りのためにホーム玄関にご意見箱を設置している。しかし、意見の投稿が無い現状がある。	苦情を含むご利用者様、ご家族の意見を今よりも伝えやすく、受取りやすくするために新たな取り組みを行なう。	・ご意見箱用のやアンケート用紙を作り、手軽に意見を書いて出せるように工夫してみる。 ・運営推進会議でのアンケート方式での聞き取りを実施して結果を運営に活かす。 ・苦情報告用紙の利用をもっと促進するために、職員間で用紙の運用方法を学んだり、改善の取り組みを行ない有効に活用していく。	6ヶ月
2	35	災害対策の実施で火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築く必要がある。そのために事例検討の実施や実践に則した訓練を実施する必要がある。	小規模福祉施設の火災対策について、全国グループホーム火災発生事例をもとに全職員で検討する。なお夜間少ない職員体制の中、職員だけの誘導の限界を具体的に確認して、対策を話し合う。	・毎月行われる職員会議の中で事例検討をする機会を設ける。 ・年2回の避難訓練の計画時に夜間を想定した訓練を実施して、反省点を話し合い、対応の改善につなげていく。	6ヶ月
3	23	思いや意向の把握する上で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握が、困難な場合は、本人本位に検討するために、日常の関わりの中で発せられる何気ない利用者のつぶやきを書き留めて、思いや希望などの把握につながる取り組みを実施している例もあるので、参考にして施設での対応を再検討する。	日常の関わりの中で発せられる何気ない利用者のつぶやきを書き留めて、思いや希望などの把握につながるような仕組みを作る。	・記録や申し送りに書かれたり、口頭で伝えられることは今でもあると思うが、それを書き溜めて、見返したりするシステムは無い。どのようなシステム、ルールを構築すれば有効か、実践者である、職員の意見を聞いて考えたい。(現状運用されている記録との兼ね合いもあるので、どのような形が良いか話し合いを持ちながら、有効な方法を慎重に探っていきたい。)	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。